

福島区歴史研究会 会報

第八号

2017. 2

目次

| | | |
|---------------------------------|------|----|
| 「五百羅漢」って、どこに? | 森本棟夫 | 1 |
| 歴史探訪 尼崎・道意新田の開発者の墓発見! | 末廣 訂 | 7 |
| 山錦関とはどんな力士?—豪栄道初Vで注目された | | |
| 鷺洲町出身力士— | 末廣 訂 | 9 |
| 福島区役所の変遷と劇的なドラマ | 太田勝義 | 12 |
| NHK・TV「探検・バクモン」の取材と | | |
| 年末放映について | 末廣 訂 | 15 |
| 「戦争体験を語りつぐ」講演と語る会を聴いて | 田野 登 | 17 |
| 三好長慶と幻の野田城 | | |
| —郷土史講演とまち案内 報告— | 服部静尚 | 20 |
| 真田幸村と大阪の陣—平成二八年第三回 | | |
| 福島区歴史研究会セミナー報告— | 水谷浩一 | 22 |
| 下半期の事業・下半期の活動記録 | | 24 |



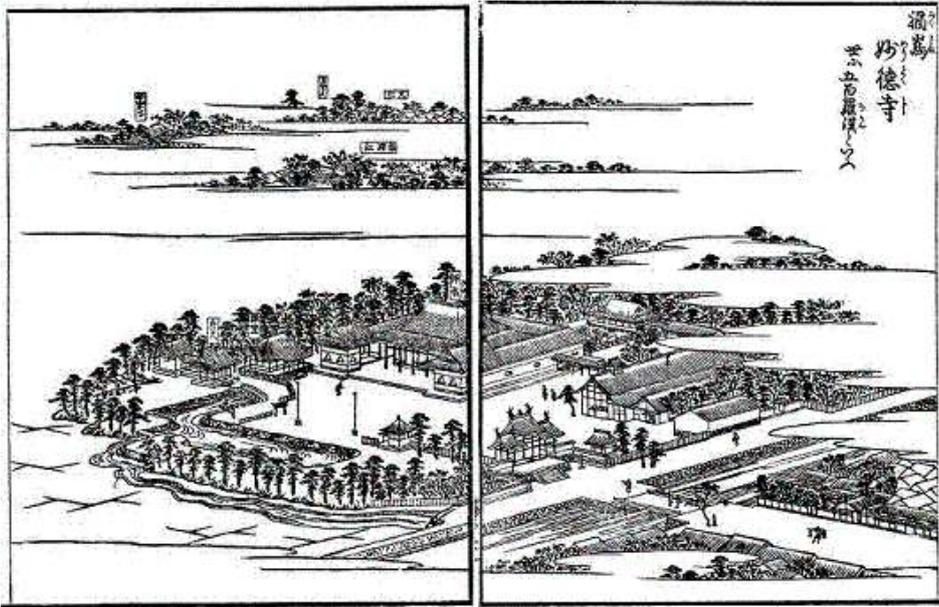
「五百羅漢」って、どこに?

森本 棟夫
むねお

「五百羅漢跡」という名所案内板が、曾根崎通の福島西通交差点を少し東へ行った大阪トヨタ(旧豊国自動車)の西側前の街灯に掲げてある。付近にそれらしい遺構や碑も無い。古い地図を色々調べて見ると、文久三年(一八六三)・明治五年(一八七二)の絵地図や、明治四四年(一九一一)・大正一二年(一九二三)、昭和三年(一九二八)などの地図に「五百羅漢」の記載が見られる。詳しい所在地の記載された書物としては、寛政八〇一〇年(二七九六〇)に発行された『撰津名所図会 卷之三』に、撰津国西成郡上福嶋村の北側、大正一一年(一九二二)に発行された、『大阪府全志 卷之二』には、大阪市北区上福島中三丁目字廻江とあり、現福島区福島五丁目一七番・福島三丁目一四番一帯(福島公園周辺)である。

寺の名前は、禅宗黄檗派龍王山妙徳禅寺で、寺域は一万坪有ったといわれている。

ご本尊の釈迦如来像を巡って等身大の「五百羅漢像」が配置されていたと、東大阪市に移転した同寺の現在の住職真田元徳氏のお話である。



福嶋
妙徳寺
世に五百
羅漢といふ



福島西交通交差点の案内板

『摂津名所図会 卷之三』秋里籬島作 竹原春朝斎図 (下は本文)

妙徳寺 福嶋の北にあり、禅宗黄檗派、龍王山と号す、開基鉄梅和尚、

正徳年中、南源和尚造立、俗に五百羅漢の寺といふ

仏殿釈迦仏 中央に安置す 禅堂 仏殿の東に有

五百羅漢 仏殿釈尊の巡りに安置す 祠堂 仏殿の西に有

万福殿 仏殿の額 隠元和尚の筆也 鎮守 池中に弁財天祭

る、山号、これより出る

千祥地勝此道永光揚 仏殿に掲る聯なり

万福殿新其源孝透徹 南源和尚の筆也

百川万流国家瑞 禅堂に掲る聯なり

五葉一花天地春 鉄梅和尚の筆也

南国山河現宰官身济物 表門に掲る聯なり

千秋香燭踞真常界護宗 百拙和尚の筆也

長流堂 禅堂に掲る額なり、鉄梅和尚の筆

瑞雲洞 表門に掲る額なり、海雲百拙和尚の筆

『大阪府全志』によると、開基に就いては、諸説があるものの、

僧行基の開創なりと伝ふれども、中世の沿革は詳ならず。

天和元年(一六八一)正月十七日僧鉄梅入りて住し、元禄十年(一六九七)十二月本堂を再建して、翌十一年其の師天徳

南源和尚を請じて中興開山と為し、本山に送入して其の末寺となる、故に亦鉄梅寺の名あり。宝永五年(一七〇八)五

月十五日禅堂成り、正徳元年(一七一)十一月八日鐘楼堂成る、其の他の諸堂造営の年月は詳ならず。安政四年(一

八五七)諸堂大破に及びしを以て(筆者私考、安政南海地

震——一八五四年十二月二十四日発生——に因るダメージで堂宇が大破したものとと思う)、十方信施の協力に依りて造

営再興し、本堂・後堂・庫裏兼書院・玄関・廻廊・鐘楼堂・

表門・裏門の外、禅堂・観音堂・地藏堂・弁財天堂等相駢

び、その結構は全く唐土の制に倣ひ、世間幾多の同門中当寺に比するものなきの壯觀を呈せり。(中略)第十世天真

の時に至りて五百羅漢の像を安置せり。是れ有名なる福島の五百羅漢にして、春秋二季に於て賽者特に多く、遂に寺

名を称せずして五百羅漢を以て世に称せらるゝに至れり。

降て明治四十一年(一九〇八)八月三十一日隣接せる同宗にして万福寺末なる久安寺(筆者注・原文は文安寺)を合併

せり。(中略)翌明治四十二年七月三十一日の大火(筆者

注 午前四時二十分、空心町二丁目—現松枝町一の扇町総

合高校附近——に在った玉田メリヤス工場のランプの火の

不始末に因る出火で、折からの東風に煽られ、翌八月一日午前四時に、福島の中ノ天神社石垣から日紡のレンガ製高

塀に至りて鎮火す)に際し、壯麗を極めし建物全部は忽ち類焼されて灰燼と化し去りぬ。

* 『大阪府全志 卷之二』井上正雄 大阪府全志発行所

一九二二 西暦は筆者挿入

この折に観世音菩薩像を運び出そうと試みたが果たせず、左の御手のみ外れて運び出された。



明治42年 焼失時

『大阪市大火救護誌』(大阪市 1910)より

大正六年（一九一七）五月一日再建復興されたが、寺域の南側を大正元年（一九一〇）九月一二日に開通した梅田新道―桜橋―福島西通までの市電路線の拡張工事で削られ、さらに北側が市営葬儀場として買収されたので寺域は三分の一の狭小となった。折からの都市化で繁華の波に禅寺として相応しく無いという事で大正一五年（一九二六）一月から昭和三年（一九二八）にかけて、現在地の東大阪市額田町二―三に解体移築された。井形正寿氏の「五百羅漢寺の後日物語」『大阪春秋』第四〇号（一九八四）に、当時の運搬手段は馬力・牛車が主体の時代だから、生駒山腹の急坂地であるこの地への解体された寺の用材・膨大な数の重い墓石の運搬は大変な事の様だったと記している。



残った観世音菩薩蔵の左手

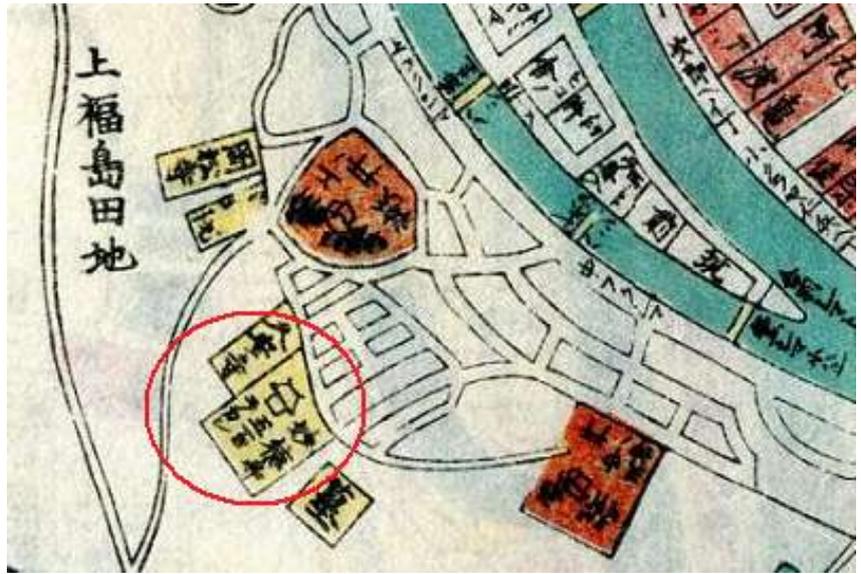
移設された標石 福島の名残「藤名所野田是より西」（中央）





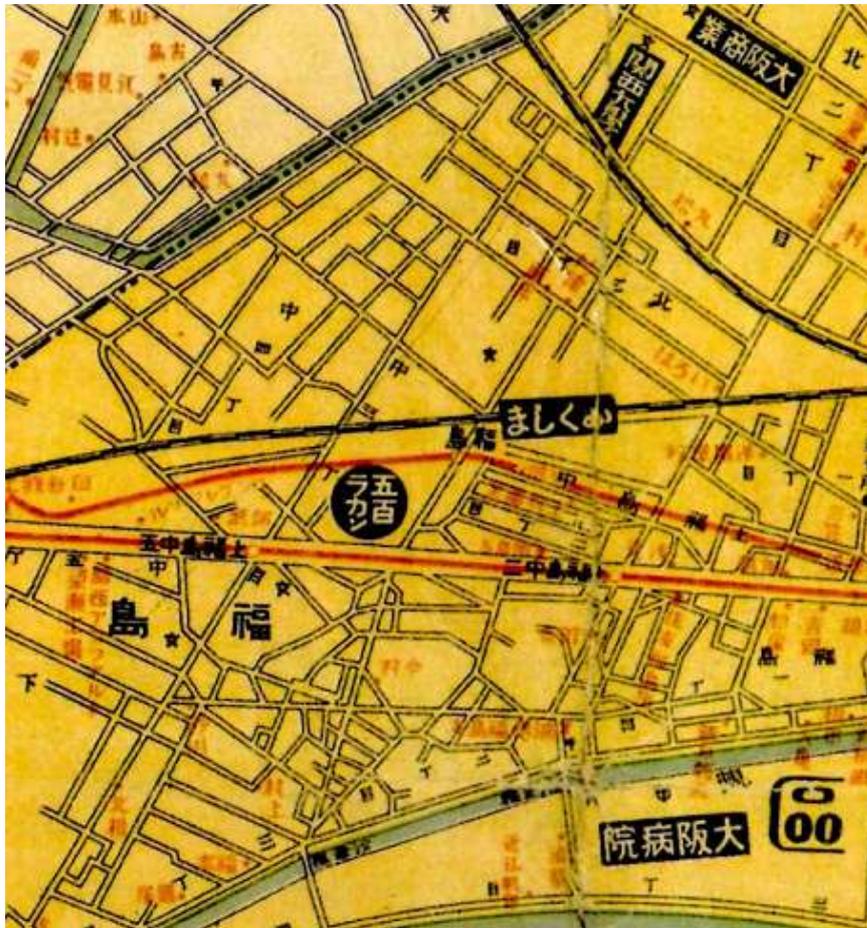
五百羅漢堂

『大阪名所独案内』
(1882)より



『大阪細見図』弘化2年(1845)より

「大阪市商工地図」
大正一二年(一九二二)より



※余話

① 妙徳禅寺に合併された久安寺内に、明治七年（一八七四）八月に上福島小学校の前身である西成郡第三区第三番小学校が開設された。

妙徳禅寺の寺域の一部を買収して造られた市営葬儀場は、大正一四年（一九二五）四月一日に何処かへ合併移転し、その跡地は、公園となり、戦後に地域婦人会の尽力で再整備され、福島（ひまわり）公園と命名された。福島区内で現存する公園で一番古いものでもある。

② 額田町へ移転してからの事だが、昭和三六年（一九六一）九月一六日午前九時すぎ室戸岬西方に上陸し十三時すぎに尼崎市と西宮市間に再上陸した第二室戸台風の影響で、移築された山門が大破した。後、本山の宇治の萬福寺の山門を模した唐風の山門を再建したが、平成二十二年（二〇〇九）に、



再建された山門

昔の山門に模した山門が復興再建された。

③ 額田への移転の際、浄正橋南東角に在る光智院が阿弥陀如来像を譲渡されたと、当寺の住職故小泉倭雄氏が祖父から聞いた話として教えて下さった。

④ 福島から運ばれて来た、焼けて傷んだ墓石は、蔵屋敷が近在に在ったせいか、宗派・男女の別なく諸国の武家の墓標が新しい台座に乗って在る。

⑤ 最後に、『撰津名所図会』載っている福島に在った旧跡で、現存若しくは碑の無いのは、「妙徳禅寺五百羅漢」と「絶間池」である、何らかの碑があれば良いなと思う。

禅寺に
松の落葉や
神意月
凡兆

『撰津名所図会大成』

（暁鐘成 安政二年（一八五五）頃）

「妙徳寺」の項より

『福島・上福島小学校の古い卒業アルバム』を少部数発行しました。福島・上福島小学校、福島図書館などに寄贈しています。

歴史探訪 尼崎・道意新田の開発者の墓発見！

末廣 訂

平成二三年六月に区民センター会議室で京都大学の岩城卓二先生をお迎えして当会主催の講演会「海老江村と尼崎藩」を開いた。

時代は江戸のまだ初期、徳川幕府ができ豊臣秀吉の残影が残っており、大阪は西国の要塞として重要な場所であった。

大阪は経済の拠点として商人中心の町と同時に、幕末まで大阪城は軍事基地として常時三五〇〇人の武士が常駐していたことはあまり知られていない（産経新聞平成二三年八月一日夕刊記事）。特に尼崎藩と岸和田藩がその要で西国からの要塞と大阪城の警護に当たっていた。

江戸時代の海老江や野田あたりの検地（田畑の測量、検査）は尼崎藩・青山大膳が担当し、同時に鷹狩と称して軍事訓練をしていたようだ。

もう一〇年近く前に市岡高校の同期生が「阪神電鉄・尼崎センタープール前駅」にある道意神社境内の説明書を見て「海老江の人がこのあたりを新田開発した」と教えてくれた。

早速、当時の道意神社を訪問し見学後、社務所で由緒書をいただきいろいろ話を聞いた。

確かに江戸時代に海老江の住人が尼崎藩の殿さまの要請でこのあたりを開発したことがわかり、また道意神社が海老江八坂神社の分祀であることもわかってきた。

その後、いろいろ文献を探してみると、海老江の庄屋「羽間市右衛門家文書」や地元道意町の「道意新田開発記」、「野里誌」（一九八九）、そして尼崎市制九十周年記念誌『図説尼崎の歴史上巻』の「新田を開く」に京都大学の岩城卓二先生が道意新田開発について詳しく書いておられるのを見つけた。

道意神社の由緒書には「承応二（一六五三）年大坂・海老江の人、道意翁当地を開拓し、間もなく郷里の八坂神社を勧請し奉れり。道意翁の姓を西村、名は九郎右衛門と称す博学篤農の長老なり、また灸を能くす、承応二年春尼崎太守青山大膳様御鷹狩りの砌、道意翁宅のご休息相成りしを機にその後度々入座あり、翁の灸を殊の外御意に召され、尼崎城にも伺候する間大いに信望を得たり（後略）」とある。

尚、地元海老江三丁目には「たかの巳社」という当時尼崎の殿様がこの地で鷹狩されたことと、殿様のお声掛りで新田開発した「道意翁」を祀る社がある。『なにわ福島ものがたり』一五二ページ参照）

その他の文献を見ても、ほぼ同じような記述であり、この記述が現在のどこかで確認できないかどうかはいつも心の隅にあ

った。

私は毎年の正月元旦に墓参しているので、平成二八年も豊中市の服部緑地にある海老江村墓地に参り、時間の合間に周辺のお墓を回ってみた。西村さん一族の墓列にある古い墓にいつもと違って花が供えられ、ジッと見つめると、その墓に「道意」と刻印されていることを発見した。(写真)



当日は正月で墓の事務所も開いていないので、春の彼岸に事務所に道意の墓について尋ねてみると「個人情報になるので」と調べもせずに断わられてしまった。

ところが、運よく、滅多に会わない西村善一さんの子孫の方（現在は箕面市在中）が墓参に来ておられ、道意の話をしたところ、不確かだが過去帳に九郎右衛門という戒名を見た覚えがあるとのこと。（その後は資料が見つからず、未確認）

また不思議なことに、五月三十一日、突然、お尋ねしますと、尼崎の道意町出身で旧姓西村というご婦人から電話があった。道意町には西村姓という方が二、三軒あり、当家はその分家であるが、亡くなった父親から新田開発の話を度々聞いたことがあり、一度調べたいと探していたところ、当会のHPを見て事務局の私宅に電話をしたということである。

三〇分程の長電話になったが、海老江から西村（道意翁）一族が新田開発のため尼崎で苦労され、その一族が道意町にご健在であると知り大変な驚きであった。

当会記念誌『なにわ福島ものがたり』を福島区の林書店に注文したとのこと、また新しい史料等が出てきたらご連絡くださいと電話を切った。

海老江には、西村姓が四、五軒あり、いずれも旧家で海老江八坂神社の宮座衆であるものの、私がお聞きした限りでは、この件（道意新田の開発や道意翁との関係）についてまだ明確な確証が得られていないのが現状であり、まだまだ調べてみるこ

とが多くある。

と同時に、平成二八年の正月に道意翁の墓にどなたがお花を供えたのかも大変興味がある。

その後、八月の墓参時に道意翁墓の隣にある西村啓司さんの墓と同じ花が供えられていたので、たぶん、隣の西村啓司さんの関係の方が道意翁と何らかの関係があるのではと推察し、失礼ながら、置手紙をしていたところ、一〇月七日にお返事が遅くなりましたと、尼崎市在の西村敬司さんから電話をいただきました。

電話でその西村さんと三〇分ほどいろんな話をしたが、残念ながら道意翁の子孫と断定できるまでに至らなかつた。戦前まで海老江におられた西村ご夫婦に子供がなく、電話をいただいた方は親戚から養子に入ったので、詳しいことはわからないとのことである。

ただ、亡くなられた夫婦の名前等はお聞きできたので、戦前の海老江のことを語る人を探している状態である。

もう少し早く（せめて昭和の時代に）お墓を発見していたらと——残念である。



山錦関とはどんな力士？

——豪栄道初Vで注目された鷺洲町出身力士——

末廣 訂

昨年の大相撲秋場所で大阪寝屋川市出身の大関・豪栄道が大阪出身力士として八六年ぶりに全勝優勝した。大阪人にとって久しぶりの快挙である。

さて、新聞やTVでは大阪府出身力士では昭和五年（一九三〇）五月に優勝した山錦以来、八十六年ぶり。とあるものの、山錦関が具体的にどこの生れで、学校や相撲部屋がどこだったのか等々一切情報が載っていない。

山錦の記念碑があるのをご存知でしょうか。

大正一四年（一九二五）に発行された一八四六頁もの分厚い『鷺洲町史』の一七九五頁一面に「本町（鷺洲町）が生める角界の寵児 山錦善次郎君」というタイトルで記事があり、詳しく山錦関について記載されている。

明治三一年（一八九八）、当時の鷺洲町北浦江（現北区大淀）の山田浅吉氏の長男に生まれ、鷺洲小学校、当時の関大専門部商業予科、本科に進学、大正六年（一九一七）東京角力協会・出羽海部屋に入門、一二年に入幕した。

身長五尺七寸（一八八cm）、体重二七貫五百（一〇四kg）と

いうやせ形の力士。得意手は押手であった。ただ『鷺洲町史』は大正一四年発行のため、昭和五年の優勝の記事はない。



『鷺洲町史』より

山錦の化粧まわしが浦江八坂神社にあったが、昭和二〇年六月七日の戦災で焼けた

記念碑は現在の大阪市北区大淀南にある素戔鳴尊神社（浦江八坂神社）に、「小結・山錦善治郎」「大日本相撲協会」と刻して、本殿前左右対の大きなくすのきを囲む玉垣（下の写真）として残されている。

この地北区大淀地区は北区と合区されるまでは「大阪市大淀区」であった。またその昔大阪市に編入されるまではこの一帯は鷺洲町と呼ばれ、海老江、浦江（現鷺洲）、大仁、塚本（現淀川区）が一つの町であった。



浦江八坂神社の玉垣

現在の淀川区塚本や西淀川区花川（旧海老江新家）が明治四〇年頃の淀川の開削により分断され、北浦江や大仁地区は、福島区と大淀区に分かれてしまった歴史がある。

『鷺洲町史』は大正一四年（一九二五）に鷺洲町が大阪市西淀川区に編入されたのを記念に発行された大変貴重な町史である。

なお、同神社内にある「王仁」神社横に明治四五年頃まであったといわれる王仁の石棺が無くなっており、現在追及中も不明である。

豪栄道が初優勝し、山錦以来八六年ぶりという快挙で、このようなことがなかったら、山錦の名前も出なかったことと、歴史の面白みの一端を紹介した。

なお、この記事を鷺洲小学校の校長先生にお渡ししたところ、鷺洲小学校では丁度『鷺洲町史』を手元にいただき、読み始めたところだったが、ここまで気が付かなかったとお礼の電話をいただいた。また、末廣さんは何故この記事があることを知っていたのですかとの質問があり、私は「四年ほど前に、鷺洲女性会の方に旧浦江の歴史とまち案内をした時にこの山錦の記事を説明した」ので思い出したと話した。

鷺洲小学校ではその後、「学校通信一〇月号」に「鷺洲のお宝『鷺洲町史』と山錦関（昭和五年五月場所優勝！）」というタイトルで大きく載せ、鷺洲小学校の出身力士であり、鷺洲町史に記載されていることの喜びを報じている。

実はこれらの情報を産経新聞に送っていたが、一月末になって、産経新聞の嶋田記者から山錦関について取材したいと電話があり一緒に取材した。

翌九州場所で豪栄道が六敗をしまい、何かニュースの価値が落ちたかなーと思っていた矢先であったが、浦江の八坂神社や山錦関の親戚、関大のOB等関係者とお会いし、また昔の

北浦江や大仁村の話を聞くことができ、大変貴重な経験をした。その時に判明したことを記しておく。

*山錦は兄弟が多い（五人）。父親は山田浅吉（八百屋）で体格のよい人であった。母親は黒田了一元大阪府知事の母親と姉妹である。

*山錦の化粧まわしが浦江八坂神社にあったが、二〇年六月七日の戦災で焼けた。刺繍されたまわしの金箔がそのまま残っていた。

*浦江八坂神社にある「小結 山錦善治郎」などの玉垣は昭和一三年に本人がくすのきと共に奉納した。

*現役時代は押しの一手で鼻の骨を折ったことがある。たいへんまじめな性格の相撲取りであった。

*昭和七年、天龍関らと一緒に相撲取りの待遇改善を求め、決起した（会場の名を取って春秋園事件といわれる）。翌年大本相撲協会を脱退して関西角力協会を立ち上げた。一時は人気を博したが、昭和一二年に解散し、山錦は引退した。

*引退後は旅館「山錦」を開業。初めはJR大正駅の北側で、二度目は土佐堀の常安橋付近で、その後廃業した。

*二人の娘さんは現在福島区と西区のマンションにお住まい。山錦時代、大学出の相撲取りが少なかったもので、昭和四七年

五月場所で輪島関（日大）が優勝した時病床であったが、涙を流して喜んでいた、と娘さんの話。

*昭和四七年に死去した山錦の墓は服部緑地公園内の大阪市墓地にある。

年末一二月二六日の産経新聞の夕刊に大きく「**山錦・波瀾万丈の人生**」というタイトルで取り上げられた。

二人の娘さんが話す父親山錦関の思い出話を中心の記事であった。特に山錦が相撲協会から手を引く複雑な思いや、同じ学生出身の輪島が初優勝した昭和四七年に息を引き取った時の話が印象に残った記事だった。私として少し残念であったのは、地元の歴史研究会として、山錦の出身地を大阪市北区だけではなくもの足らず、せめて（旧大淀区北浦江出身）を入れてほしかったと嶋田記者にメールした。

正月三日に嶋田記者より、取材のお礼と新聞記者の立場から旧町名や区の表示をすればその説明が必要になって、取材の本筋から離れてしまうので、大変申し訳なくと返事をいただいた。

記者と同行して取材した経験は「松下幸之助創業の地記念碑」以来である。

福島区役所の変遷と劇的なドラマ

会長 太田勝義

福島区は昭和一八年（一九四三）四月一日に誕生し、区役所は福島区海老江中二丁目五八番地（現在海老江六丁目一番）に置かれた。旧西淀川区役所庁舎をそのまま引き継いで新庁舎とした。建物は木造二階建てで、職員は旧西淀川区役所職員が、ほぼそのまま残り、執務に当たった。区域は旧西淀川区海老江、浦江（現鷺洲）と、此花区福島、玉川、野田、吉野、大開（新町名による）と、北区堂島浜通、西、北梅田の一部を合わせて、世帯数三万三千、人口一四万七〇〇〇人を以てスタート。しかし昭和二〇年六月の大空襲により被災。学童集団疎開で空校舎になっていた吉野小学校に移転、終戦を迎えた。昭和二〇年十月現在の区内居住人口は、創設時の三分の一の四万四八〇〇人になっていた。（『福島区史』より）

吉野小学校の早期明渡しが決定され、旧西野田高等小学校跡地である吉野三丁目の現区民センター・福島消防署・福島警察署のあるところに、仮庁舎として区庁舎建設工事が着手され、翌二三年三月に木造平屋建てが完成した。前面に小さな聖天川があり、橋を渡って区役所に通じていた。

しかし仮庁舎であった区役所も狭隘の為、三三年三月より撤去し、翌三四年二月十日、隣接の体育会館、保健所と共に竣工

した。

その後、昭和六三年に体育会館が建て替えられ、新たに鉄筋コンクリート五階建ての区民センターが、スポーツセンター・図書館・会議室・ホールを含み、合築建設された。

次に、大きな問題が出てきた。福島区役所をどうするかである。昭和三四年に建設された福島区役所の老朽化である。平成一五年頃、間近に迫る平成二〇年には築五〇年を迎えるが、どうするのがいいのか、現地で建替えるとする案が一般的であったが、私は反対の意見を持っていた。現地建替えとなれば、仮庁舎を建てねばならず、そんな場所が無い。しかも建築費は仮庁舎だけでの事であり、移転も二回必要で、その費用に数億かかり、そこに本建築に二〇億円超を見込む事から、費用がかかると、仮庁舎建築と合わせ年数も大幅に延び、相当な無駄が発生する。一方、向かい側の大開側に大きな民有地があり、そこに区役所を移し、現区役所跡地には、消防署・西野田幼稚園・警察署の建て替え、区民センター前に大きな広場を確保するべきだと提案した。そうこう議論している間に、大開民有地所有者のジャスコ本店（現イオン、創業時はスーパーシロと称した）が、地元、開発デベロッパーに既に売却してしまい、新所有者は天然温泉付き、超高層マンションの建設計画を立て、設計図も出来上っていた。これは一大事、これはイカン!!。私のアイデアは露と消えかかった。

同時に私は、大開小学校の用地が余りにも狭隘で、どうにもならない状態であることを知っていたので、この際体育館とプールをここに移して校庭を拡げる事が、地元住民・学校・教育委員会の悲願であり、実現させるためには、この旧ジャスコ用地を大阪市教育委員会が買い上げ、体育館兼プールをそこに建築させることによって本校校庭を拡げ、残りの土地は大阪市民局が買い上げ、区役所を移転させる事が最良と考えていたので、これはまずいと大阪市の両局に早いとこ買い上げを訴え、一方、開発デベロッパーにも働きかけ、この事情をお伝えし、工事を思い止まるようお願いした。有り難い事に、先方は公共用地に供する事を理解し、大阪市に譲り渡してくれた。大阪市もよく、思い切って買ってくれたものだ。劇的に間一髪間に合った。仮設の一〇数億円が生きてきたわけである。正にドラマの如く展開した。

一方、区役所移転については、場所が従前の吉野連合から大開連合に替わる事から両連合の地元の方々のご協力とご理解が必要となった。長年、慣れ親しんだ吉野地区から、広い北港通りを横断する訳だから、反対が出て当然であったが、何回となく話し合いが持たれ、受ける大開地区側共々、有り難い事にご理解をいただいた。当時の両連合会長さんはじめ、多くの方々の努力に敬意を表したい。

さて、新しい区役所の建て替えについて、他の区役所を訪ね

たり参考にして、何回も打合せを市民局と行った。大筋は、区民・市民が明るく集い、利用頻度を高める事。駐車場を地下に設け、保健センター機能を高め、老若男女が手軽に利用出来る事。福島区の区の花である「野田藤」を自然にPRする事であった。

具体的にはロビーを広く、天井を高く、南側面を広く、大きくガラスで採光を取り、野田藤のステンドグラスを配置し、各階に会議室を設け、特に六階には、四つに分かれる大中小の会議室を、それを一つにすれば二〇〇人〜三〇〇人規模の集会が出来る事、災害時には一時避難所にもなるように。

地下に一七台収容できる駐車場、上部階には災害用備蓄倉庫を設け、健康に供する検診用保健バスの二台の横付け。冷暖房機の削減、雨水の再利用、深夜電力を使い、氷蓄熱をして冷房に使うなど。緑化と景観面のアップを図るといふもの。

その他、デザイン、備品についても細やかな配慮を行った。まず、正面、南側は明るくする為に高さ六メートルの全面ガラス張りとし、上半分には野田藤をモチーフにしたステンドグラスを四面、高さは三メートルに及ぶ壮大なもので、下半分のガラス面には小さく可愛い野田藤の花弁を点々とあしらっており、これは玄関口から待合ロビー内に至るまで、ガラスというガラスに模様が入っている。よく見ないと見落とすが。

入口から待合ロビー、執務カウンターのあちこちに、野田藤の二種類の造花が二五房も垂れているのも可愛いし、紫色のフ

ツピー君（福島区のマスコット）も六ヶ所、あちこちで愛嬌を振りまいている。当初、正面ロビーに区地域振興会寄贈のロボット・フツピー君が音声で「こんにちは」と挨拶してくれていた（今は故障中）。待合ロビーは広く、明るく、椅子も多く、図書、雑誌も置かれ、市の情報も多くした。ガラス展示ケースが三つあり、右側は当歴史研究会専用で展示（半年ごとに入れ替え）を行うと共に、区内生涯学習の皆様の作品展示も行っている。

外側に目を転じれば、正面六階の南壁面に二メートル真角の区花であるシンボルデザイン野田藤の陶板がデンとはめ込まれてある。日本広しと言えど、こんな立派な陶板は他にはない。玄関東側には、区女性団体協議会寄贈の野田藤と柵がある。自転車の置場も十分とられている。どこから見ても自慢出来るものばかりである。

完成は平成一九年五月三十一日。快晴の下、多くの区民の皆様と喜びの竣工式を迎えた。そして、旧区役所のあった向かい側には既存の区民センターと、後日、福島消防署、福島警察署が建設され、付近一帯は、他区には見られない素晴らしい官庁街が形成される事になった。

但し、この素晴らしい福島区役所の寿命も、あと二〜三年と思われる。それは、大阪市長が大阪市を解体し、五つの特別区に分けるとし、福島区は北区に併合され、区役所は淀屋橋にあ

る現大阪市役所を使用すると公言しているので、福島区役所は
どうなるだろう。売却対象となる可能性がある。
本当の意味での劇的なドラマの幕明けがあるかもしれない。

NHK・TV「探検・バクモン」の

取材と年末放映について

末廣 訂



昭和二三年
落成の庁舎

『区勢小誌』1953より



昭和34年から平成19年の庁舎



平成一九年竣工の現庁舎



庁舎正面の野田藤の
ステンドグラス

平成二八年九月の二〇日頃、表示圏外で自宅に「NHKです
が福島区歴史研究会の末廣さんですか」と電話があった。
NHK東京のI氏という方で「実はお札に關した放送を企画
しているが、福島区歴史研究会が新一万円発行時に「A〇〇〇
〇〇7A」という大変貴重で珍しい番号を日銀からいただいた
といういきさつを知りたい」とのこと。

当初、電話の表示が圏外であり、本当にNHKからの電話な
のか疑った。しかも現在の一万円札が発行されたのは、平成一
六年であるので、もう一二年も前の話―ただ、この新一万円札
が交付された式典の司会を私が担当したので、当日のことはよ
く覚えていたので、その後民放TV「開運なんでも鑑定団」で
この新札が三百万円の値段が付き当時大変話題になったことな
どを話した。

その後、全然電話がないのもう忘れていたところ、ほぼ一
カ月がたった一〇月一五日に再度、聞き覚えのある声でNHK
のIですとー。

それ以来三、四回の電話のやり取りがあり、どうやら「探検・
バクモン」という水曜日の夜八時頃に放映されている番組の企

画のようで、年内に「お札の印刷工場の見学ができる事になったので、お札の話題として福島区歴史研究会という民間のボランティア団体がどのような経緯でA7号券を入手したのか、また現在でも保存しているのならどのように保管しているのか、福沢諭吉を研究された井形正寿さんほどのような人物だったのか？」等々で取材をしたい旨要望があった。

たまたま、一〇月度の企画会議が二〇日（木）にあり、会員が出揃い、当時の話ができるので、二〇日に来ていただく約束になった。

しかし当時の写真、新聞報道記事の確認等を事前に確認したので、前日の一九日にカメラマンと音響担当と一緒に取材をしたく、是非協力願いたいと再度電話があり、前日の夕方三時ごろから図書館に急遽、館長・会長や事情を知る会員に集まってもらい、事前打ち合わせと当時の資料や写真を持ってきてもらった。翌日の月例会は福島図書館の福沢諭吉記念室で行った。そしていつもの区民センター三〇三号室の会議室は撮影用の機材が持ち込まれ、日銀からの新一万円札交付式の写真や福島一丁目にある福沢諭吉誕生の地碑・中津藩蔵屋敷跡碑等の撮影室になった。

福沢諭吉記念室で朝一〇時から会議が始まると同時に取材がはじまった。約一時間超の取材であったが、インタビュー形式で各会員からその時の思い出話等が話され、いきさつを知らな

い会員にも参考になったと思う。その後放送日も二転三転の後、近畿二府四県が年末の十二月三〇日（金）朝八時二〇分から九時三三分、他の全国地域は十二月二十八日（水）の夜七時半からの放映と決まった（関西地方では毎年二八日夜は漫才大会がある為、全国统一の放送日にならなかった）。そして、大判のポスターやチラシも送られてきた。

東京から三名の担当者が二日間にわたり取材されたが、我々が出るのはわずか三分ほどの放送であった。番組は滅多には入れないお札の印刷工場やデザイン室等、日本技術の結晶を伝える大変有意義な放送であったと思う。さすがNHKさんです。

参考 井形正寿「新一万円札A7号券」が福島区歴史研究会に交付される」『大阪春秋』第一一七号）
太田勝義「福澤諭吉と福島区」『なにわ福島ものがたり』

平成16年 新1万円札の交付先と番号

- A000001A 日本銀行貨幣博物館
- A000002A 慶應義塾
- A000003A 平等院
- A000004A 国立印刷局
- A000005A 宇治市
- A000006A 大阪市
- A000007A 福島区歴史研究会**
- A000008A 日本銀行
- A000001B 中津市



撮影風景

「戦争体験を語りつぐ」

講演と語る会を聴いて

田野 登

日時 二〇一六年八月二十八日(日) 午後二時～四時

会場 福島区民センター三階会議室

講師 邊見 榮生氏(福島区歴史研究会会員)

吉澤千代子氏(学童疎開体験者)

参加者 五六名。

一 はじめに

冒頭、坂本幸三福島区長、岡倉光男福島区歴史研究会副会長から挨拶がありました。お二人とも戦争体験を風化させてはならないと熱く訴えられていました。

今年のタイトルは「戦時・戦後の風景―あるとき私は：―」ということで、お二人の体験を講演していただきました。まず最初は、当区のままざまな役員をされ連合町会会長を歴任なさった当会会員の邊見榮生氏が戦後の風景を話されました。

続いて証如上人の危機を守り討ち死にした人の菩提を弔い祀られる家出身の吉澤千代子氏が学童疎開の体験を話されました。

以下、講演のあらましを記します。

二 講演内容

(一) 邊見榮生氏による「戦後の風景」

私は昭和一〇(一九三五)年に当区吉野三丁目に生まれて、このかた、この地に住んでいる。父は昭和の初め徳島県から商売をするため大阪に出てきた。私は八人兄弟の長男で三人とも元気にしている。

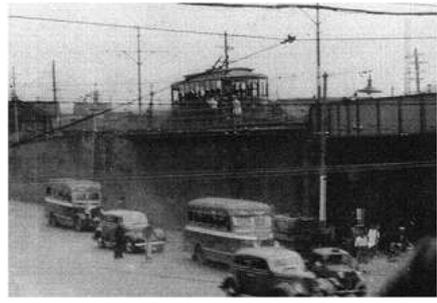
戦後の暮らしは食べることで精いっぱいだった。一二月三日の晩、新しい衣類を買ってもらえるのが楽しみだった。勉強をするのも卓袱台に新聞紙を敷いてだった。

野田阪神の戦後の風景を憶えている。市電が通っていて、現在の近畿大阪銀行の前から上り坂になり西成線を跨いで玉川四丁目に至った。当時は自転車、馬車、リヤカーが乗物だった。馬の水飲み場があつて、馬車引きの人も馬と一緒に水を飲んでいたりもした。

大仙寺が現在の三菱USJ銀行の所から吉野四丁目の現在地への引越した時のことも憶えている。本堂を丸太の上の台車に乗せて半日も一日もかけて移動したものだ。

新橋筋商店街は当時、賑わっていた。朝八時から晩九時まで店は開いていた。此花区、天満、十三からも客が来ていたのだ。商店街に一人だけ入れる小さなポリボックスがあつた。その横に通称「地獄谷」という一角があつて、今もある。復興住宅を改造して店を開いたもので「入ったら帰って来られない」とか噂されている。これほど古いままの住宅を店舗としている所も珍しいのではないか。現在、フジタ病院の所には三階建ての福

島警察があつた。



高架の玉川4丁目市電停留



中島陽二作成

「明治44年頃の現福島区」より

野田阪神のロータリーの所には「一、六、三、八」の付く日に夜店が出た。一〇円の歌詞カードを売っていた。昭和三〇年から四〇年代には野田阪神駅前にはナショナルの広告塔が立っていた。松下幸之助の創業の地が大開だったからだ。昭和四四年には、野田阪神前で「すてない」「よごさない」「こわさない」をスローガンにする「三ない運動」が行われ女性会のパワ―が発揮されたりもしたものだ。

私は、西野田幼稚園、吉野小学校、野田中学の出身だが、六年前の吉野小学校創立百周年の時、つくづく地域とのつながりを感じた。福島区の住民一人一人が安全で安心なまちづくりにこれからも寄与していただきたい。昨日と同じ今日でいい。戦争のない国、戦争をしない国にこれからもしてゆきたい。

(二) 吉澤千代子氏による学童疎開体験

私は昭和九（一九三四）年生まれで、玉川小学校、市立下福島高等女学校を卒業した。両親とも大阪生まれで田舎のない小学生の私は集団学童疎開をした。福島区内十校区からは、広島県東部の福山市から尾道市にかけての地区が疎開先だった。昭和一九年九月一九日、汽車に乗るのが初めてだった私は、茶色い盛り土の塩田を見て「何ともええところへ来た」とはしゃいだりもしたが、日に日にご飯が少なくなり、飢えを感じるようになった。ノミやシラミにやられたりもした。

そんな中、楽しいこともあった。私たちは薬師寺を寮としたが、もう一つ蓮華寺も寮だった。あるとき、合同の演芸会があった。浪花節の掛けあいなど戦争中というのに楽しい思い出もあった。しかし毎日は規則正しい生活の繰り返しだった。

一日の始まりは坂の下の井戸の水汲みだった。私たちが寮としたお寺は真言宗のお寺だったので、食事の前に般若心経を唱えてから食べた。満州国の歌も教えられた。「：：見わたす限り大豆畑：：」大豆は満州で穫れるのを歌に釣られて覚えたものだ。学校の終業の時、皇太后の歌をみんなで歌ったりもした。

疎開生活を続けている中、体重が二二キロまで減った。ノビル、オオバコ、ハコベラなどの野草を地元の人から教えてもらい、サツマイモの蔓も食べた。スズメカラスの葉を茶にして弁当の蓋に入れて飲んだりもした。

私は元々、体が弱かったけれども学童疎開を体験して元気に

なれた。一所懸命に与えられたご飯を食べた。一年と一ヶ月だったけれども疎開先の空気が良かったことを憶えている。いまだに手を合わせてご飯を食べられるのはありがたいことで、感謝する気持ちを、あの時学んだ。

三 質疑応答

定刻どおりに講演が終わり、五分の休憩の後、三五分間の質疑応答の時間に入りました。用意した「講演へのご質問およびご意見」の用紙への記入は七件あり、一件五分というせわしい時間で質疑応答をしました。

質問の中には、空襲のことや防空壕の場所といった今回、取り上げられなかったことへの質問がありました。また疎開体験は、今回、話された他にもっと苦しかったとの意見もありました。

最後に川嶋恵子福島図書館館長から丁寧なご挨拶をいただき、末廣訂本会幹事長から参加者へのお礼のことばと連絡で締めくくりました。

四 むすびに代えて

討議の司会をしていた私から一言、感想を申し上げます。「戦争体験を語りつぐ」ということは、たいへん意義深いことです。それにつけても参加者が七〇歳以上の高齢者に偏り、戦争体験のない私のような人も、もっと好奇心を抱いて、この

ような催しに積極的に参加願いたいものです。孫・曾孫に語り継ぐバトンの受け手がなくなるのを懸念します。「戦争」をめぐる話題は、今後、さらに多角的に語り合うことも大切なのは、ないかと今回の講演を聴いて感じました。



邊見氏の講演風景

研究会の旗の初お披露目



吉澤氏の講演風景

古い写真を探しています

お手元のアルバムをひもといて

災害や今はない建物などが

写っているものがあれば

ご提供ください

三好長慶と幻の野田城

―郷土史講演とまち案内 報告―

服部静尚

日時 二〇一六年十一月六日(日)

午後二時～三時半 講演

午後三時半～五時 野田城跡巡り

会場 仏光寺会館(福島区吉野)

講師 藤 三郎氏(福島区歴史研究会幹事)

参加者 五四名

三好長慶は戦国時代に、織田信長に先駆けて室町幕府を無力化した人物です。長慶は十六世紀後半、芥川山城(高槻市)・飯盛山城(大東市・四條畷市)を拠点に、山城・摂津・河内・和泉・阿波・讃岐・淡路・丹波・大和国を支配して、戦国天下人となりました。

この長慶が、実は福島区のこの地域とも関わりの深い人物だったのです。藤さんの講演は、三好長慶が登場する時代背景から始まります。

一 講演内容

(一) 長慶登場前の出来事

天文元年(一五三二)六月、長慶の父三好元長は(室町将軍家の跡目争いで対立していた)細川晴元の依頼を受けた本願寺

証如の呼びかけに応じて決起した一向一揆に攻められ、堺で自害したが、長慶はその前日阿波に逃れていた。

同年八月、この晴元が本願寺を裏切つて敵対したため「畿内天文の一向一揆」が勃発した。証如は晴元の軍勢に襲われた。これが「二十一人討死の合戦」で、この時に証如を救ったのが野田村の(本願寺)門徒衆であつて、証如を背負つて脱出したのが念仏久左衛門、船で逃がしたのが藤三郎左衛門と云い伝えられている。(当日参加された毎日新聞記者の念仏氏が前者の十六代目で、講師の藤氏が後者の十二代目の子孫に当たるとの紹介があり、一同仰天するところでした。)

(二) 本願寺証如と三好長慶が同盟し晴元と戦つた

天文三年六月、晴元に追われた(何と若干十二歳の)長慶は、証如と同盟し、野田福島の一揆勢を率いて棕橋城(豊中市)を落とした。ここを拠点に晴元と戦いたびたび勝利した。こうして長慶は危地を脱し、本願寺は劣勢を挽回した。野田福島衆はその功績により直参門徒に取り立てられた。

(三) 長慶畿内制覇までの道のりと信長の上洛

その後の約二〇年間、勢力を拡大し続けた長慶は天文二三年(一五五四)から永禄七年(一五六四)、飯盛山城にて四三歳で病死するまで「戦国天下人」として京都を支配していた。この五年後、跡を継いだ三好三人衆が野田城で上洛した信長を迎え撃つことになる。

(四) 野田福島の合戦

元亀元年（一五七〇）將軍足利義昭を担いだ信長が、七く八万の軍勢で野田城を囲んだ。義昭は浦江城に信長が海老江城に入城、迎え撃つ三好勢は八千人に雑賀の鉄砲隊三千人を加え野田城に籠城する。銃撃戦のさなか、近江国で浅井・朝倉・一向一揆連合軍が呼応蜂起し、信長軍は京都へ撤退する。

「野田福島は天下無双の勝地なり。西は大海、四国・淡州へは船往還の通路あり。南北東は淀川にて水巻なること帯の如し。里の周りは沼田なり。まことに防戦の要害これにましたるところなし。」三好勢が野田福島を選んだ、これが理由だった。

(五) 幻の野田城

残念ながら遺跡としての野田城は未発掘だが、岡倉光男氏・渡辺武氏の研究により、明治初期に残っていた地名と地形からその概要は推定されている。

講演後のまち巡りで、玉川四丁目（野田城跡碑）・極楽寺・野田恵美須神社（弓場跡）・衛壕跡付近・野田城外堀・春日神社・旧極楽橋跡を藤氏・岡倉氏によって案内いただいた。

二 終わりに

藤氏の講演によって、戦乱の世に若干十二歳で飛込み、初めての戦国天下人に登りつめた長慶、「理世安民」の旗印が物語る教養人・長慶の理想を実現するには時代が早すぎたが、その波

乱の人生・人としての魅力に触れる機会をいただけました。

藤氏が指摘されるように、日本史の中でもっと焦点を当るべき三好長慶であって、鉄砲主体の戦争の先駆けとなった「野田福島合戦」や、天下無双の要害「野田城」と共に、人口に膾炙されることを期待します。



玉川4丁目の野田城跡碑の前で
(福山琢磨氏提供)

講演風景
(福山琢磨氏提供)

藤三郎氏が自費出版されました。

『よみがえった福島区の花のだぶじ』

頒布価格 一三〇〇円

林書店で販売中

真田幸村と大阪の陣

— 平成二八年第三回セミナー報告 —

水谷浩一

日時 十一月二十七日(日) 午後二時〜午後四時

会場 福島区役所 六階大会議室

講師 北川 央氏(おさ) (大阪城天守閣館長)

テーマ 真田幸村と大阪の陣—名将の生涯—

参加者 四九名

NHK大河ドラマの「真田丸」が終盤に入り、大阪冬の陣真っ最中にセミナーを開催できたことはグットタイミングでした。また「幸村」ブームの折、引つ張りだこの北川館長を迎えたことは正に幸運といえました。うわさ通りの軽快なトークと資料に基づいたお話で、あつという間に一時間四〇分が過ぎました。

一 講演内容

参考資料を見たときは最初、読み辛いなあと感じたが、講師が順を追って分かり易く解説していくうちに自分でも理解できるようになったのも不思議でした。

特に印象に残った史料を二つ紹介します。

(1) 『先公実録』「左衛門左君伝記稿」卷之一抜粹

信濃松代藩真田家の記録

真田籠城の由相聞へ、早打を以て家康公へ注進これある処、上聞に達すや否や、御直に出御成され、御聞き候に、真田籠城と申上げ候へば、親か子か親か子かと御尋ね遊ばされ候由、戸に御手御懸成され御座候に、戸がたがたと鳴り、御ふるひ遊ばされ候由、親は病死、子の左衛門左にて御座候よし申上候へば、少し御落着遊ばされ候。

〔解説〕

家康が大阪城へ向う途中、浜松城で真田が大阪城へ入ったという報告を受けた。「真田が籠城したと申すか親か子か、親か子か？」と尋ねるも家康が手を置いた障子がガタガタと鳴りわたるほど家康の手が震えていた。

「親は病死、子の左衛門左であります」と答えたらずし落着かれた様子であった。家康は父正幸には二度痛い目に遭っていたが、このときはまだ幸村のことは評価していなかったためである。

(2) 慶長二〇(一六一五)年五月一日付 細川忠興書状

別紙(『綿考輯録』卷一九 抜粹)

真田左衛門左於合戦場討死、古今無之大手柄、首ハ越前宰相殿鉄炮頭取申候、乍去手負候て草臥伏て被居候を取候付、手柄ニも不成候、

〔解説〕

手負いの幸村が田んぼの畔に戦いくたび休んでいたところ、越前の足軽頭に首を取られた。しかし正々堂々と戦って取ったのではなかったので手柄として認められなかった。

全体の論旨は次のとおりです。

福島区歴史研究会 2016年下半期の事業

- 『福島・上福島小学校の古い卒業アルバム』発行 8月
『福島区歴史研究会会報 第7号』発行 9月
展示「戦後70年－市民生活と災害－」4/11～9/30 (会場・福島区役所)
展示「福島区の祭りとお地蔵さん」7/12～10/30 会場・福島図書館
講演と語る会「戦争体験を語りつぐ」8/28 (会場・福島区民センター)
講師・邊見榮生氏 吉澤千代子氏
展示「海老江の今昔」10.11～3.31 (会場・福島区役所)
「福島区民まつり」10/29 クイズ・展示など (会場・下福島公園)
講演とまち案内「三好長慶と幻の野田城」11/6 (会場・仏光寺会館)
講師・藤 三郎氏
セミナー 平成28年度第3回「真田幸村と大坂の陣」11/27 (会場・福島区役所)
講師・北川 央氏

2016年 下半期の活動記録 (上半期補足含む)

- 4/12 樟蔭女子大田辺聖子文学館訪問
7月 研究会の旗作成 (大1 小2)
7/8 展示入れ替え (図書館)
7/21 企画会議
8/18 企画会議
8/25 講演会準備 (区民センター) 夜懇親会
9/15 企画会議
10/7 区役所展示替え
10/9 「ふれあい祭り」(福島小学校) パネル展示
10/19 NHK取材
10/20 企画会議 NHK取材
10/29 区民まつり準備 (下福島公園)
11/2 図書館展示撤去
11/6 講演会準備 (仏光寺会館)
11/17 企画会議
11/19 西野田工科高等学校文化祭展示準備
11/20 西野田工科高等学校文化祭
11/27 セミナー準備 (区役所) 夜懇親会
12/7 海老江東小学校6年生に平和学習「戦争の話」 講師・末廣事務局長ほか
12/30 「探検バクモン」(NHK)に研究会所蔵の「一万円札A7号券」登場

福島区歴史研究会会員として
地域の講師などされた方は
事務局までご連絡ください

募集します！
会員の原稿を

★浦江塾 (協力) 7/2 9/3 10/1 11/5 12/3

ホームページ <http://o-fukushima.com/rekishi/top.htm>

(会報バックナンバーも掲載)

(印刷：谷口印刷紙業)